

ブラジルを訪れて

昨年6月、ブラジルを訪れる機会を得、ブラジル植調の試験場を訪れた。カンピナスの東山農場を見学し、それから延々と続く甘蔗栽培地帯を通り抜けて、イタペチニングにあるブラジル植調の試験場に着いた。この時期は、大豆等一般作はすでに収穫を終え、いうなれば休閑の時期ではあったが、試験場の一部では大豆・甘蔗等を対象としての試験が行なわれていた。ブラジル植調の試験はこの圃場で行なわれるだけでなく、対象の作物によってはその作物の適地で現地試験を行なっている故、担当者の移動等を考えると、なかなか大変な仕事である。いうまでもなく、一般作は日本の収穫期頃から作付が始まるのであるから、全く地球の裏表で播付と収穫が対照的に行なわれるわけである。誰もがブラジル農業は大きいし、また発展性も期待され、農業使用の潜在性も大きいという。確かに栽培面積(1979~1980)は、トウモロコシ1,236万ha、大豆870万ha、水稻630万ha、コーヒ-220万ha、棉140万ha等、実に大きい。この中には、日本で作られない棉、コーヒ-等がある。この現地試験は、日本人が行なっているのであるから、試験設計の細部にわたる打合せができ、その試験のポイントの把握も適確に行なわれる。畑作除草剤一つをとってみても、われわれはどうしても海外に発展せざるを得ない。ブラジル植調は、ブラジル農業にも寄与すると共に、日本企業のブラジルへの発展の足場としたい。日本・ブラジル政府の一そうの理解と援助が望ましい。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 浦野啓司〕
石原産業株式会社 顧問

目 次 (第15巻第12号)

世界の畑作雑草と除草体系

(2) 世界の地域別農業と雑草(中国

・東アジア・南東アジアと南ア

ジア) 2

〈宇都宮大学 竹松哲夫・竹内安智〉

8. 中 国 2

9. 東アジア 3

(1) 韓 国 3

(2) 日 本 5

10. 南東アジアと南アジア 7

(1) タ イ 8

(2) インドネシア 10

(3) フィリピン 11

(4) イ ン ド 11

昭和56年度水稻作関係除草剤試験成

績概要 18

〈財団法人 日本植物調節剤研究協会〉

第1表 適1試験成績判定結果一

覧表 19

第2表 適2試験結果判定一覧表 21

第3表 適2使用基準一覧表 22

第4表 体系是正実用化除草剤使

用基準一覧表 49

第5表 少量散布実用化除草剤使

用基準一覧表 51

第6表 ハトムギ関係実用化除草

剤使用基準一覧表 53

表紙の写真は、カタバミの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、亀甲突起型、4000倍。

〔写真提供者：笠原安夫氏〕